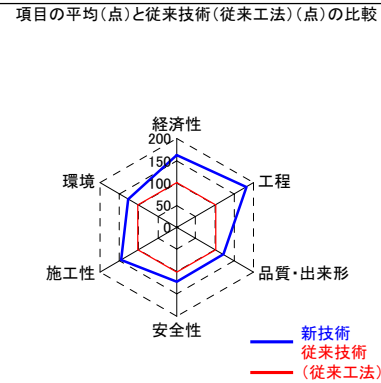


活用効果評価結果

平成22年度

北海道開発局 新技術活用評価委員会

開発目標	経済性の向上、安全性の向上、その他(維持管理の施工性向上)		
新技術登録番号	HR-050026-A	区分	製品
分類	付属施設 - 道路付属物工		
新技術名	グレーチングストッパーSP		
比較する従来技術(従来工法)	ボルト固定式(4点止め)		
新技術の概要及び特徴	<p>グレーチングを道路側溝や街渠樹コンクリート内壁とを固定させる専用の金具で、一般通行車両によるグレーチングの跳ね上がりや集中豪雨等によるグレーチングの浮き上がりの防止、また、固定されていないグレーチングの蓋鳴りに対する騒音の抑止や防止対策として効果を発揮する技術。</p>		
活用効果評価	所見	<p>・既設のグレーチングをそのまま利用可能なため、既設側溝の取壊し・復旧が不要でありコスト削減に貢献できる技術である。</p> <p>・即日施工、即日復旧が可能により、安全費(交通誘導員)の人数を減少させることが出来、重量及び質量の軽減により運搬費低減に貢献できる技術である。</p> <p>・既設構造物の取壊し不要で、即日施工、即日復旧が可能であり、取付け取り外しが簡易なため維持管理が容易になり、施工性の向上に貢献可能な技術である。</p> <p>・オールステンレス製のため防錆性能は向上し、ワンタッチ脱着により、維持管理作業の低減化・簡素化に貢献できる技術である。</p> <p>・施工マニュアルに基づき、熟練度を要しないため制約条件減少及び工程短縮に貢献できる技術である。</p> <p>・既設構造物の取壊し不要で、即日施工、即日復旧が可能であり、取付け取り外しが簡易なため維持管理が容易になり、施工性の向上に貢献可能な技術である。</p> <p>・オールステンレス製のため防錆性能は向上し、ワンタッチ脱着により、維持管理作業の低減化・簡素化に貢献できる技術である。</p> <p>・既設構造物の取壊し不要で、作業時間が短縮され、施工工程が減り安全性の向上に貢献可能な技術である。</p> <p>・既設側溝の取壊し不要で、振動・騒音・建設副産物の抑制等、環境の向上に貢献可能な技術である。</p>	
	留意事項	<p>「経済性」</p> <ul style="list-style-type: none"> 特殊ドリル(90°用)を使用しなくてはならないことに留意する。 <p>「工程」</p> <ul style="list-style-type: none"> 現地の側溝・樹の内壁の形状寸法によっては、若干の取付時間を要する必要があることに留意する必要がある。 <p>「品質・出来形」</p> <ul style="list-style-type: none"> 既設グレーチングを流用する為、既設部の取替等を要する従来技術より、外観や、耐久性で劣る場合があることに留意する必要がある。 U型フックの上部が2~3mm程度、グレーチング蓋より突出する為、冬期除雪作業時、除雪車の排土板が接触する恐れがあることに留意する必要がある。 取り外しに専用の器具を用いなければならないことに留意する必要がある。 <p>「施工性」</p> <ul style="list-style-type: none"> 既設グレーチングの事前調査(既設グレーチングの変形、受枠とのさび付き、既設側溝内壁の著しい損傷:設置不能)が必要であることに留意する必要がある。 	



活用効果調査結果	対象工事	別紙参照										項目の平均(点)	従来技術(従来工法)(点)
	項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
	経済性	別紙参照											
	工程	別紙参照											
	品質・出来形	別紙参照											
	安全性	別紙参照											
	施工性	別紙参照											
	環境	別紙参照											
	その他	別紙参照											
	施工時評価点	別紙参照											
追跡調査													
総合評価点													

項目	評価結果	補足	
		内容	判定区分
成立性	技術として成立している	技術における機能、品質、性能などを試験や理論的なもの等での確認・証明の有無	技術として成立している 技術として成立していない
優位性	従来技術より優れる	従来技術に対して優れている度合い	A 従来技術より極めて優れる B 従来技術より優れる C 従来技術と同等 D 従来技術より劣る
安定性	高い安定性を有す	各評価項目の判定結果による総合評価	高い安定性を有す 安定性に問題がない 安定性が確認されない
現場適用性	広い	技術の優位性が高いものの件数の多寡	広い 特に広いとまでいえない -(評価基準に満たない)
区分	従来技術に比べて活用の効果は優れている。また、活用の条件の違いに対する評価の安定性を有し、多くの現場で良い評価を得ている。(設計比較対象技術)	-	-
追跡調査の必要性			
追跡調査			

活用効果評価結果（別紙）

平成22年度

北海道開発局 新技術活用評価委員会

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	H19	H19	H19	H19	H19	H19	H19	H19	H19	H19	H19	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20
経済性	A	A	B	B	A	B	A	A	A	A	C	A	A	A	A	A	B	A	A	
工程	A	A	A	A	A	A	A	B	A	A	A	A	A	A	A	A	C	A	A	
品質・出来形	B	C	B	B	B	C	C	C	B	C	B	C	B	C	C	B	C	B	A	
安全性	C	B	B	C	C	C	C	C	B	B	B	B	B	B	C	B	C	C	B	
施工性	B	A	A	A	B	B	B	C	A	A	B	A	B	B	C	B	C	B	B	
環境	C	C	B	B	C	C	C	C	B	B	B	C	B	B	C	B	C	B	A	
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
施工時評価点	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	C	B	A	
追跡調査																				
総合評価点	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	C	B	A	
	経済性	工程	品質・出来形	安全性	施工性	環境	その他	施工時評価点	追跡調査	総合評価点										
項目の平均	A	A	B	B	B	B	—	B	—	B										
従来技術 (従来工法)	C	C	C	C	C	C	—	—	—	—										
対象工事	1	維持工事 「中国」	(従来技術) ボルト固定式細目グレーチング樹蓋(枠内寸500×500)	H19																
	2	維持工事 「中国」	(従来技術) ボルト固定式細目グレーチング樹蓋(枠内寸500×500)	H19																
	3	維持工事 「中国」	(従来技術) ボルト固定式細目グレーチング樹蓋(枠内寸500×500)	H19																
	4	維持工事 「中国」	(従来技術) ボルト固定式細目グレーチング樹蓋(枠内寸500×500)	H19																
	5	維持工事 「中国」	(従来技術) 4点ボルト固定による側溝蓋更新	H19																
	6	維持工事 「四国」	(従来技術) 既設鋼製蓋をボルト固定式鋼製蓋に取替	H19																
	7	修繕工事 「九州」	(従来技術) 4点ボルト固定式グレーチング	H19																
	8	共同溝工事 「中国」	(従来技術) 4点ボルト固定工法	H19																
	9	修繕工事 「近畿」	(従来技術) 4点ボルト固定工法	H19																
	10	その他工事 「近畿」	(従来技術) グレーチング受枠交換	H19																
	11	改良工事 「四国」	(従来技術) 4点ボルト固定工法	H19																
	12	維持工事 「中国」	(従来技術) 4点ボルト固定工法	H20																
	13	維持工事 「四国」	(従来技術) 4点ボルト固定式に更新	H20																
	14	維持工事 「中国」	(従来技術) 4点ボルト固定工法	H20																
	15	維持工事 「関東」	(従来技術) 4点ボルト固定工法	H20																
	16	維持工事 「関東」	(従来技術) 4点ボルト固定法	H20																
	17	維持工事 「東北」	(従来技術) ボルト固定式細目グレーチング樹蓋	H20																
	18	補修工事 「九州」	(従来技術) 4点ボルト固定式	H20																
	19	修繕工事 「近畿」	(従来技術) 4点ボルト固定工法	H20																